

やすらぎだより

9
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それやすらぎ園です

コラム第123号

「 夕刻の判断 」

施設長 植田 誠



この時季恒例の風物詩、「やすらぎ会夏祭り」は8月8日無事にそして盛大に開催することができ、先ずは関係者の方々に感謝の意を表します。

40回近くの回数を重ねると、何となくイベントの精度が高まるだろうと心の余裕も膨らみがちとなる私に対し、取り仕切る実行委員長の責任感と緊張感に満ちた表情がそんな空気を戒めてくれる。特に今回は、開始直前の緊迫した判断が我々には待ち受けていた。

屋外イベントを開催するならば避けては通れない天候との戦い、否、天候への備え。午前中の晴天が嘘のように昼後には曇天となり、葛城山上の西南には黒ずんだ雲の堆積が広がる。程無く雨粒は落ち始め、やがてスコールのような激しい情景。

「屋内開催の最終判断は午後3時です」

凛々しい顔つきの中にもどことなく寂しさがうつる委員長の表情から、重みのある決断が迫っていることがわかる。

「判断は4時まで待とう」

一路順風とはならないことを改めて知りながらも最善を尽くす。

時は4時、一同の澄んだ想いが3階の神殿に響き渡り、雨曇りの空はやがて薄く塗りかえられ、夕刻の空に一点の西日が射した。

「屋内ではなく、予定通り屋外にて開催します」

力強い委員長の声は、皆の心を奮い立たせるのに充分だった。想定外な時間経過の中、迫り来る開演までの準備を各々はテキパキとこなしていた。

「私は心配していませんでした、神さんにもたれてたらネ」

早々と着席されたある利用者様は、薄暮の空を眺めながら重厚な一言を述べられた。未熟な私達を見透かし、そして諭すように。

何事も無かったかのような穏やかな夕闇は、例年以上の涼しさと心地良さに包まれた。雨が運んでくれた御蔭で。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- | | |
|------------------|----------------|
| ○特別養護老人ホーム やすらぎ園 | ○ケアハウス やすらぎ |
| ○在宅サービス事業所 | ○介護予防関連事業 |
| 居宅介護支援事業所 | ○グループホーム むつみあい |
| 訪問介護事業 | ○天理市ひとり暮らし |
| 訪問入浴介護事業 | 高齢者世帯等見守り事業 |
| ○短期入所生活介護事業 | ○低所得高齢者等住まい・ |
| ○在宅介護支援センター | 生活支援モデル事業 |
| ○天理市東部地域包括支援センター | |